

1. 協議会名称 函館市ユニバーサルツーリズム推進協議会  
 代表者 会長 奥平 理

2. 実施箇所 北海道函館市(西部地区)

3. テーマ  
 坂や段差が多い函館地域を訪れる高齢者や障がい者の移動を円滑にするための情報提供

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

高齢者、障がい者

【提供するサービス内容】

バリアフリールート、多目的トイレの有無、施設のバリアフリー対応状況、医療機関情報の提供

【場所情報コードの活用方法】

現在地から目的地までのバリアフリールートや各施設のバリア情報などの提供に活用

【歩行者の位置特定方法】

GPSから発信される位置情報を携帯端末で受信

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

段差、幅員等のバリア情報を利用し、注意喚起等に活用

図. 移動支援サービスのイメージ



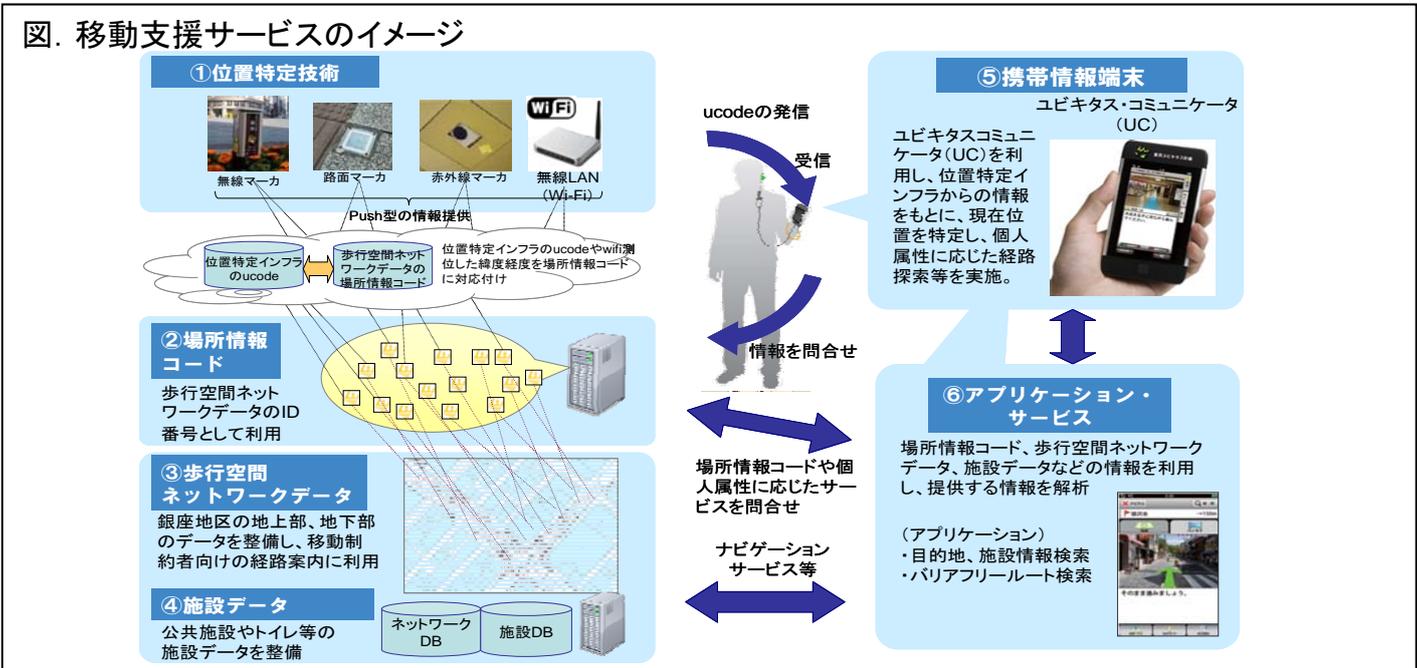
5. 数値目標と達成時期

サービス利用者: 15人以上(うち高齢者や障がいを持った方15人以上)

コンテンツ作成数: 70施設、バリアフリールート作成数: 1,500ルート

## 各協議会からの提案概要(銀座地区)

1.	協議会名称 「東京ユビキタス計画・銀座」実施協議会 代表者 会長 邊見 隆士
2.	実施箇所 東京都中央区(銀座四丁目交差点を中心としたエリア)
3.	テーマ 歩行空間ネットワークデータを活用した個人属性に応じた車いす利用者やベビーカー利用者等への最適な経路案内情報の提供
4.	<p>提案内容</p> <p><b>【情報提供の対象者】</b> 車いす利用者、高齢者、その他(ベビーカー利用者等)</p> <p><b>【提供するサービス内容】</b> 歩行空間ネットワークデータを利用し、個人の状況に応じた経路案内複数の位置特定技術を利用した地上・地下を結ぶシームレスな経路案内</p> <p><b>【場所情報コードの活用方法】</b> 位置特定インフラから発信されるucodeと関連付け、位置特定、経路探索に活用</p> <p><b>【歩行者の位置特定方法】</b> 電波マーカ、赤外線マーカ、Wi-Fiから発信される位置情報を携帯情報端末で受信</p> <p><b>【歩行空間ネットワークデータの活用方法】</b> 段差、幅員等のバリア情報を利用し、個人の身体状況に応じた経路探索、誘導に活用</p>



5.	<p>数値目標と達成時期</p> <p>サービス利用者: 30人(車いす、ベビーカー利用者)</p> <p>車いす利用者の事故の減少: 20%、介助者の付き添い機会の減少: 80%、移動時間の短縮: 20% 等</p>
----	---

## 各協議会からの提案概要(京都地区)

1. 協議会名称 京都フラワーツーリズム推進協議会  
代表者 会長 御館 統生

2. 実施箇所 京都府宇治市(世界遺産地区)、京都市(嵐山地区)

3. テーマ  
子連れ観光・外国人観光を実現させるためのコンテンツ作りやホスピタリティの高いまちづくりの推進

### 4. 提案内容

#### 【情報提供の対象者】

赤ちゃん連れ家族、外国人、来訪者

#### 【提供するサービス内容】

緊急防災情報、歩行者への音声ガイド(日、英)、離れた家族の位置情報提供、赤ちゃん連れ用の施設情報提供

#### 【場所情報コードの活用方法】

場所情報コードにバリア情報を紐付け、音声ガイドによる情報提供に活用

#### 【歩行者の位置特定方法】

GPS、Wi-Fiから発信される位置情報を携帯端末で受信

#### 【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

段差、幅員等のバリア情報を利用し、注意喚起等に活用

### 図. 移動支援サービスのイメージ



### 5. 数値目標と達成時期

サービス利用者: 200人以上(うち子連れ100人以上)

アプリケーション利用者: 10千人以上(平成23年度中)、関連産業等の雇用人数: 500人(平成26年度)

## 各協議会からの提案概要(長崎地区)

1. 協議会名称 長崎市LRTナビゲーション推進協議会

代表者 長崎県立大学国際情報学部教授 森田 均

2. 実施箇所 長崎県長崎市

3. テーマ

3G回線を利用した路面電車・利用者双方向位置情報配信システムによる歩行者移動支援サービス

4. 提案内容

【情報提供の対象者】

高齢者、障がい者、来訪者

【提供するサービス内容】

LRTの低床車両の運行状況(走行位置)の確認、停留所周辺のバリア情報や観光情報の提供

【場所情報コードの活用方法】

QRコードタグから場所情報コードを取得し、現在位置の把握に活用

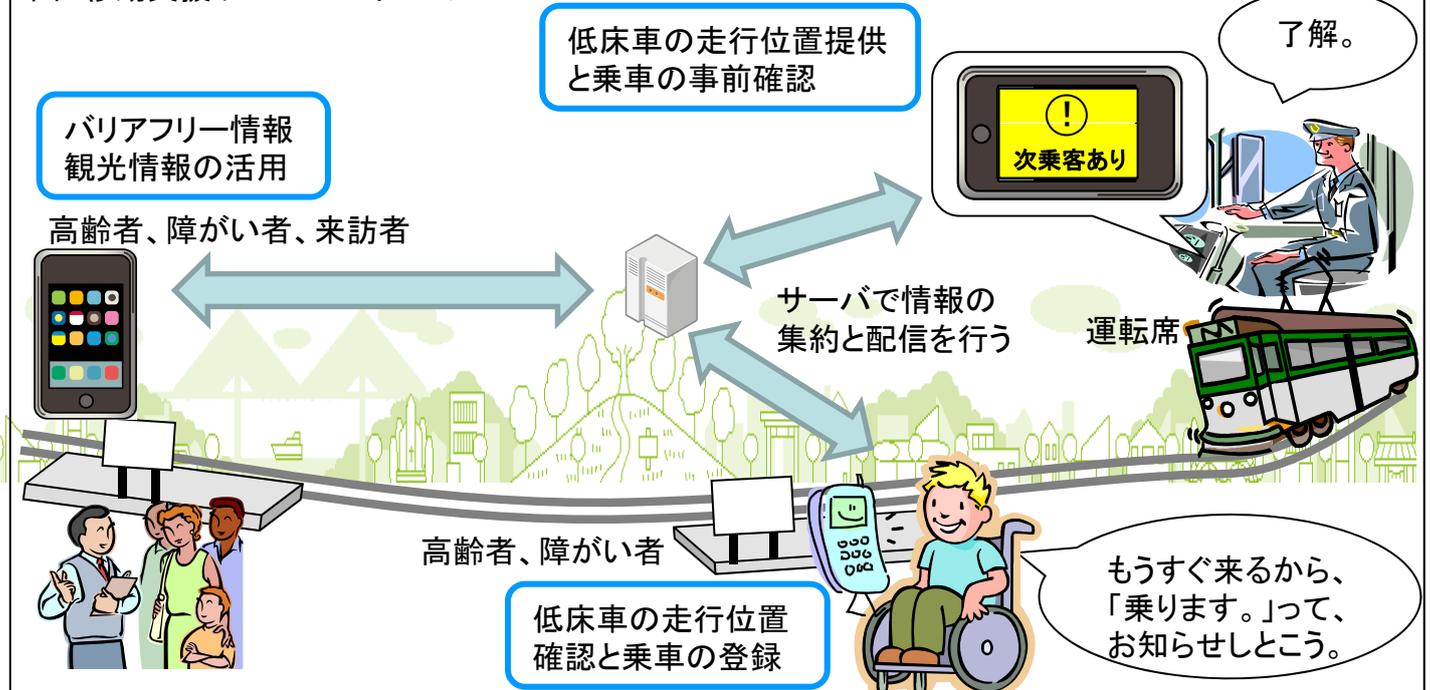
【歩行者の位置特定方法】

GPS、QRコードから発信される位置情報を携帯端末で受信

【歩行空間ネットワークデータの活用方法】

停留所周辺のバリア情報の提供に活用

図. 移動支援サービスのイメージ



5. 数値目標と達成時期

サービス利用者: 15千人以上(うち、車いす利用者180人以上)

移動機会の増加: 5%以上増加、移動時間の短縮: 5%減少

平成23年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業実施箇所

